

# 人権学習展開例

- 主題名 被差別部落の歴史(2)
- 教材名 被差別部落の歴史から学ぶ(近世～近代編)
- 人権学習の視点 個別的な視点「同和問題(部落差別)」
- 主題・教材について

「人権学習資料集〈高等学校編〉」を参考にし、ワークシートとスライドをもとに講義形式で授業を行い、差別の解消につながる知識・認識や意識・態度を育てることをめざす。

生徒が正しく同和問題の歴史を学ぶことで、繰り返されてきた差別の構造とその過ちについて認識し、間違いを許すことなく見つけ、正す行動をとることが求められている。人権上配慮を要する情報がインターネット上に流出し不特定多数の人の目に触れ、誤った情報がインターネット上に掲示されると、それを閲覧した人が拡散し、差別を拡大させることがある。歴史的経過の中で差別の構造と差別意識の根幹について学び、差別を許さない意識や行動力を育てたい。

## ●ねらい

同和問題(部落差別)に関わる科学的な認識を身につけることにより、不合理なことを見抜く力や人権感覚を育て、社会に残る被差別部落を忌避・排除する考え方が連鎖することを防ぐ。

## ●関連する教材

人権学習資料集〈高等学校編〉 「6 被差別部落の歴史」  
人権学習資料集〈中学校編Ⅱ〉 「2 偏見って何？」

## ●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○学習内容を説明する。	一斉			提示資料
	○「人権感覚とは何か」を考える学習であることへの動機付けをする。 ○本時の目的と目標を明確にする。	一斉 個別ペア	○マイクロ・アグレッション※について、自分の感覚を振り返る。 ○ワークシート②に書き込む。	○「人権学習資料集〈中学校編Ⅱ〉」などを参照する。 ※マイクロ・アグレッション 日々のありふれた言動または環境面での侮蔑的な行為	プロジェクタ ワークシート②
展開	○部落差別とは何かを把握させる。	一斉	○被差別地域に住んでいる、またはその地域出身というだけで差別される状態であることを知る。		
	○身分制度を上下の関係だけでなく、ウチ・ソトという横の関係でも捉えさせる。	一斉	○ワークシート②に書き込みながら講義を聞く。	○講義の柱は、人権学習資料集〈高等学校編〉を拠所に、取捨選択する。 ○近世の基本的な歴史事項の知識理解については、教科の指導と連携する。	ワークシート② 人権学習資料集〈高等学校編〉

### 近世の「身分」「身分制度」について認識を深める

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	○被差別部落の人の生活について理解させる。	一斉	○ワークシート②に書き込みながら講義を聞く。	○土農工商の本来の意味を示し、身分への誤った理解があるなら正すようにする。 ○被差別身分は社会の最底辺という誤った捉え方があるなら正すようにする。 ○根底に、ケガレ観念があることに留意する。  ○被差別身分の人々も町人や百姓身分との行き来があったものの、その実態に留意する。 ○仕事や役負担、人口増加を支える経済力があつたことを必ず押さえる。	
	<b>解放令の歴史的意義を、差別解消という目的から捉え直す</b>				
	○解放令等の意義と影響について考えさせる。	個別 一斉	○個人の考えをワークシートに記入した後、グループで意見を交流する。	○近代の基本的な歴史事項の知識理解については、教科の指導と連携する。 ○差別の政治的・制度的な根拠が無くなったことと、差別解消のための具体的な施策がなかったこととの関係に注目させる。 ○人権保障とは不可分な「平等」「自由」などの価値を下げるものではないことに留意する。	
まとめ	○本時の学習を振り返らせる	一斉	○人権学習のまとめを踏まえて、社会の中に残っている意識、自分の意識に注目する。  ○正しく知ること、間違っただ情報に惑わされないこと、根底に偏見や差別がある点で他の人権課題と同和問題は同じであることを理解する。	○不当な差別や誤った考え方に出会ったとき、それをはねのける行動力と、その行動力を支える知識が必要となることを説明する。 ○「差別をしない」は、差別を見て許していることになりかねない。「差別をなくす」ためにどのように行動すればよいか考えることが重要であることを強調する。	

### ●評価

- ・被差別部落の歴史を学ぶことで、同和問題(部落差別)について正しく理解し、不合理なことを見抜く力や人権感覚を育てることができたか。
- ・同和問題(部落差別)を自らの生き方とかかわる問題として捉え、解決していこうとする態度を培うことができたか。